

ハビエル・エチェバ リアの生涯

ビエル・エチェバリア司教
(1932年マドリッド～2016
年ローマ)

2017/02/10

ハビエル・エチェバリア司教はオプス・ディの2代目属人区長で、1994年に福者アルバロ・デル・ポルティリョの後継者でした。

1932年6月14日、マドリードで生まれました。8人兄弟の末子でした。サン・セバンティアン市のマリアニ

スト会の学校とマドリッドのマリスト会の学校を通いました。

1948年に学生寮でオプス・デイの若者を知り合った。当年の9月8日に日常生活の中に聖性を求める神の召し出しを感じ、オプス・デイに加わりました。

法学および教会法の博士号を取得しています。マドリッド大学で初めて、ローマで続けました。（1953年に教皇庁立聖トマス大学で教会法博士号、1955年に教皇庁立聖トマス大学で法学博士号）。

1955年8月7日、司祭に叙階されました。聖ホセマリア・エスクリバーの忠実な協力者として、1953年から聖ホセマリアの帰天する1975年まで秘書を務めました。

1975年、アルバロ・デル・ポルティーリョ神父が聖ホセマリアの後継者に選出されてから、事務局長に

任命され、1982年、オプス・デイが属人区として設立されたことにより、属人区長総代理となりました。

1994年4月20日、オプス・デイの属人区長として選出され、さらにヨハネ・パウロ2世教皇により認証を受けたエチェバリーア神父は、1995年1月6日、聖ペトロ大聖堂で同教皇より司教に叙階されました。

最初から、家族、若者、文化の分野の福音宣教を優先しました。ロシア、カザフスタン、南アフリカ、インドネシア、スリランカなど16ヶ国のオプス・デイの活動の始まりを推進しました。オプス・デイのメンバーと協力者の使徒職を促すように全世界を回りました。移民、病人、見捨てられた人のための取り組みを励ました。末期患者のための緩和ケアの何ヶ所の施設に特別な注意を払っていました。

カテケーシスの旅や司牧活動には、よく取り上げた課題は、十字架上のイエスへの愛、兄弟愛、他人をえる事、恵みと神のことばの重要さ、家族生活、教皇との一致などでした。ちょうど、最後の手紙には、11月7日の教皇フランシスコの謁見を感謝して、教皇様とその意向のための祈りをいつものように願いました。

数多くの司牧的書簡を書き、「Memoria del beato Josemaría（福者ホセマリアの思い出）」、「Itinerarios de vida cristiana（キリスト者の信仰の歩み）」、「Para servir a la Iglesia（教会に仕えるために）」、「Getsemani（ゲッセマネ）」、「Eucaristía y vida cristiana（ご聖体と信仰生活）」、「Vivir la Santa Misa（ミサ聖祭を生きる）」などの靈的著書をも書きました。

聖座の列聖省審議委員と最高裁判所に属しました。2001年、2005年と2012年のシノドス（通常総会）、アメリカ・シノドス（1997年）とヨーロッパ・シノドス（1999年）に参加しました。

2016年12月12日、ローマで呼吸不全により帰天しました。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント [https://opusdei.org/ja-jp/article/
sheng-ya-10/](https://opusdei.org/ja-jp/article/sheng-ya-10/) (2026/02/16)